

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスMOKSHA		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 12日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2026年 2月 12日		～ 2026年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の情報共有や連絡体制が充実し、保護者との信頼関係が構築されている。定期面談や記録の見える化を進めることで「見える支援」として価値向上が期待できる。	公式LINEや送迎時の対話を活用し、保護者とのこまめな情報共有を意識的に行っている。	保護者向けの家族支援プログラム（ペアトレ・進路説明会）を定期開催し、家庭支援機能を強化する。
2	活動プログラムが固定化されず柔軟に展開されている。子どもの選択機会をさらに増やし、主体性・自己決定支援の強みとして発展させることができる。	個別スペースを確保し、子どもの特性に応じた環境調整を実施している。	評価結果や支援内容を可視化し、職員・保護者双方へ定期的にフィードバックする仕組みを構築する。
3	地域交流（保育園・高齢者施設、他放課後等デイサービス事業所等）を既に実施している点は強みである。今後は児童館・クラブへ拡張し「地域に開かれた拠点」としての価値を高められる。	活動の多様化を意識し、外出・交流・体験活動を積極的に取り入れている。	第三者評価を導入し、客観的視点による業務改善サイクルを確立する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部機関との連携後の情報共有や記録の可視化が不十分で、支援の一貫性に課題がある。	情報共有の仕組みが個人依存となっており、標準化された運用ルールが未整備である。	情報共有フォーマット（連携記録・アセスメント共有）を統一し、全職員で運用する。
2	保護者向け研修や家族支援の機会が不足しており、家庭支援機能が限定的である。	業務優先度が高く、家族支援や外部連携の企画にリソースが割けていない。	年間計画に家族支援・地域連携を位置付け、計画的に実施する体制を整える。
3	評価結果やアセスメント内容の職員間共有が不十分で、情報の属人化が見られる。	評価結果の活用方法（分析→改善）までの仕組みが明確でない。	評価結果を基にした「改善会議」を定期開催し、PDCAサイクルを強化する。 第三者評価や外部研修を導入し、客観的視点を組織に取り入れる。 職員研修をレベル別・役割別に体系化し、専門性の底上げと標準化を図る。